

# 02 社会課題解決型商品・サービスの開発

## 東海理化と社会課題解決の歴史

東海理化には「人が手掛けないことこそやる」という創業精神で社会課題に取り組んできた歴史があります。

1962年に米国での法制化にいち早く着目して二点式シートベルトを開発して交通事故死傷者数減少に貢献しました。

1963年にインパネにあるスイッチをステアリングコラム回りに集合させ、目線移動を最小限にすることにより安全運転に貢献しました。

1994年に欧州での自動車盗難急増による車両不正使用防止装置の装着義務化に着目しイモビライザーシステムを商品化し、盗難減少に貢献しました。

このように自動車産業に関わる社会課題にいち早く対応してきました。



## Think Scrap ～端材から生まれたアップサイクルブランド

2020年に東海理化全従業員に対して新規事業アイデアの社内公募を行いました。集まった1904件のアイデアを丁寧に絞り込み10テーマに層別。その中にシートベルト端材の活用でSDGsに貢献したいという意見が多く含まれていました。

シートベルトの端材は毎日約300kg発生します。「端材を使って価値あるモノを作り出す」という発想がThink Scrap誕生のきっかけになりましたが、東海理化ではシートベルトに対して複雑な縫製作業ができず途方に暮れていたところ、東海理化の想いに共感していただいた株式会社まるかと出会い、複雑な縫製の商品製造のめどがつかま

した。

また、シートベルト端材だけでは商品ラインアップに限りがあると思っていた時に「他業界のメーカーも生産工程で発生する端材の活用方法に悩まされていないか?」という発想からさまざまな会社に声をかけた結果、ビニールカーテンを製造する株式会社チームライクから端材の提供が得られることになりました。また、地元の大学生からアイデアをもらい、かわいらしいデザインのトートバッグも開発しています。

当社単独では困難な商品開発も、地元の企業や学生とコラボレーションすることで、SDGsに貢献しています。

Think Scrap

<https://www.thinkscrap.jp/>



「Think Scrap」各種製品  
※地元愛知県内の縫製工場 株式会社まるかと連携



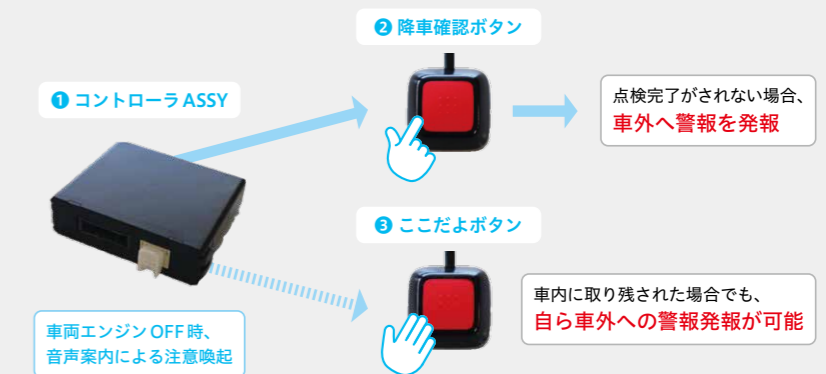
学生と開発をしたトートバッグの一部

## 車内置き去り防止支援システム ～悲しい事故を受けた超短納期での商品化

2022年9月、幼稚園児通園バス置き去りという痛ましい事故の報道を受け、このような悲しい事故は二度と起こさないとの思いで、社内関係部署一丸となって開発を推進しました。国交省へのプレゼン、トヨタ・日産への売り込み、社外関係者とも密に連携し、これまでにないスピードで製品化し、2023年3月にリリースしました。

量産品をベースに開発することで、短納期開発、車載品質の確保が可能になり、車両のイグニッション信号のみを使用し装置の起動・停止をすることで、既存車両

への搭載を容易にしました。さらに声案内による車内警報で、初めて利用される方でも容易にわかる操作にしています。



## これからの社会課題解決型商品・サービス

東海理化には「必要ならば人が嫌がることでも誰かがやらねばならない」というチャレンジ精神があります。

その精神で構造が複雑で採算の確保が困難なスイッチ製品、盗難の手口の高度化に直面しているキー・ロック製品、法規が定期的に更新され年々要求性能が上がっていくシー

トベルト製品などの商品を手掛けてきました。

これからも、社会課題に目を向け、必要であれば異業種とも協業し、社会課題解決に資する商品・サービスの開発を続けていきます。